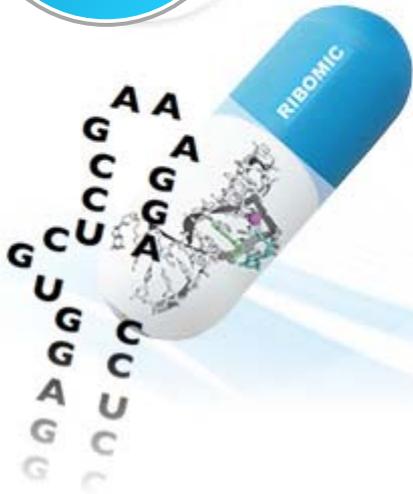


アプタマー
って何？

RNAやDNAの核酸がいろんな形を
造ってタンパク質にフィットできる
新素材です。

薬に
なるの？

アプタマーは病気の原因タンパク質に
結合して、その働きを抑制する、
次世代の新薬として期待されています。



有効な薬のない不安・・・
そんな不安をなくしたい



会社説明資料

2014年9月

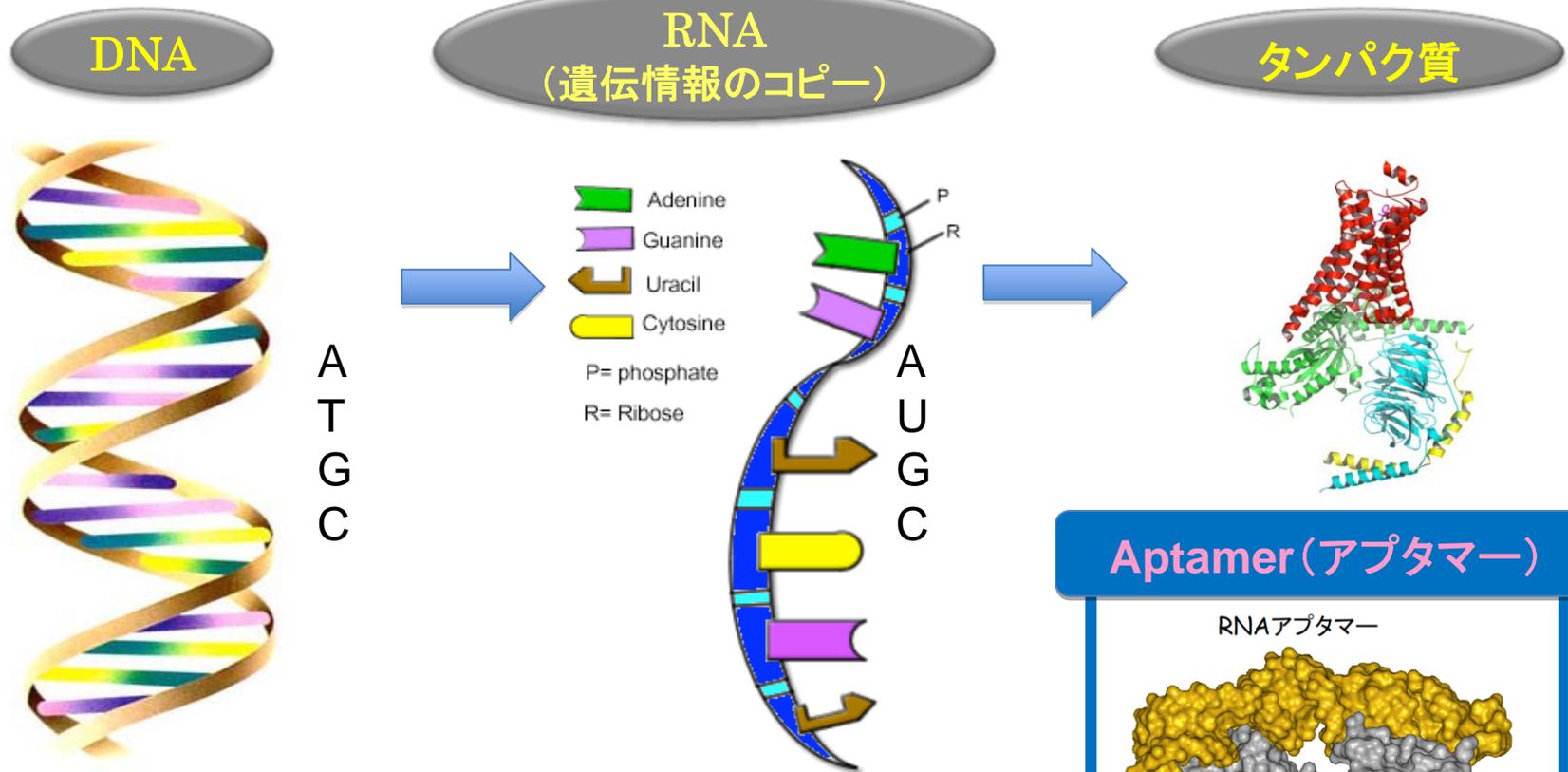
アプタマー創薬のリーディング・カンパニー

リボミック

RIBOMIC

薬の素材となる核酸とは？

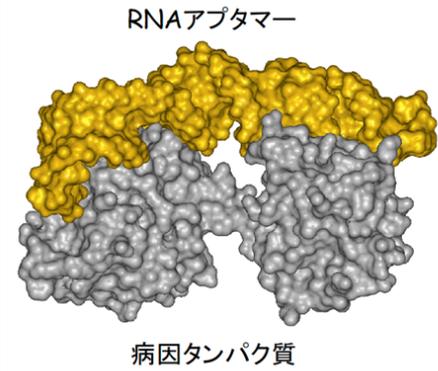
分子生物学によって生命の仕組みと核酸(DNAとRNA)の役割が明らかにされた。



セントラルドグマ

[セントラルドグマ] DNA分子のもつ遺伝情報がRNA分子を介してタンパク質分子に一方に伝えられるという生命原理

Aptamer (アプタマー)



沿革

F = 増資

創業

2003

創業

2004

創薬事業開始

2005

F

中村役員参加

2006

F

2007

アライアンス

大塚製薬(1)

2008

F

大塚製薬(2)

2009

全薬工業

2010

F

中村東大退官
CEO就任

2012

大正製薬

2013

藤本製薬

2014

IPO予定

F

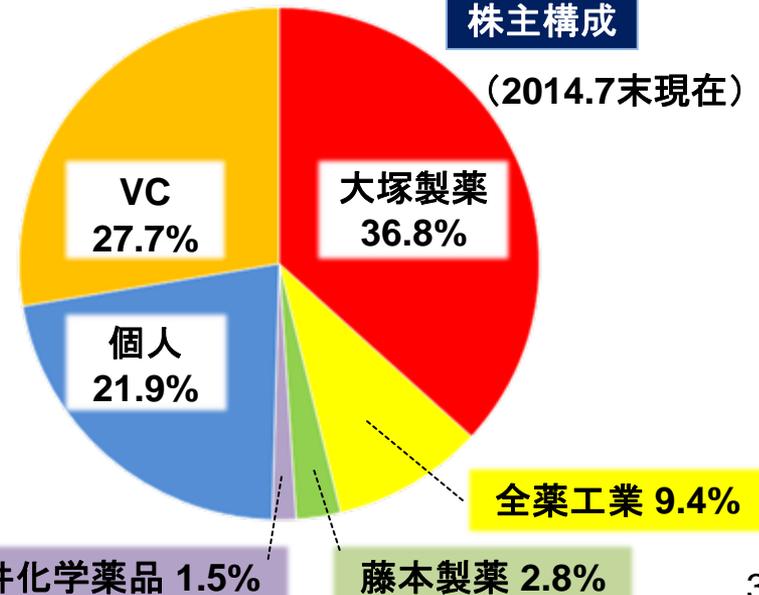
会社概要

商号：株式会社リボミック
 所在地：東京都港区白金台3-16-13 白金台ウスイビル
 設立：2003年8月
 資本金：1,572百万円
 役員：中村 義一（代表取締役社長 PhD）
 宮崎 正是（取締役 財務担当）
 宮川 伸（取締役 研究担当 PhD）
 藤井 素彦（監査役 常勤）
 高木 正明（監査役 MBA）
 矢部 豊（監査役 公認会計士）

社員数：16名（除く兼務役員2名）
 ライセンスアウト先：藤本製薬(株)
 共同研究先：大塚製薬(株)、大正製薬(株)、全薬工業(株)
 アカデミア提携先：東大、名大、東北大、理研等

株主構成

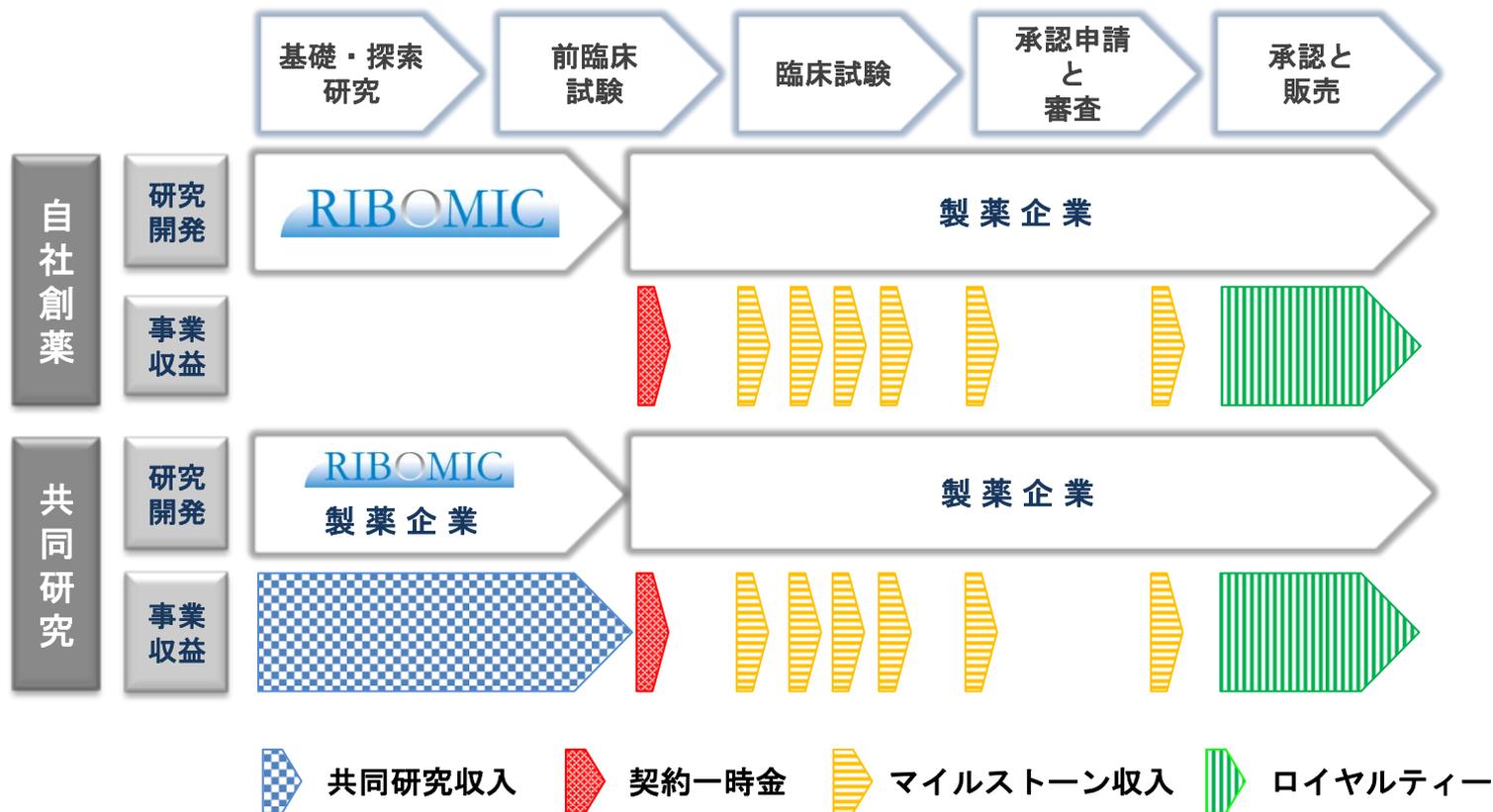
(2014.7末現在)



当社のビジネスモデル

「創薬プラットフォーム系バイオベンチャー」として

早期ライセンス・アウトを前提として知財を固め、
共同研究収入とライセンス対価による収益を計ります。



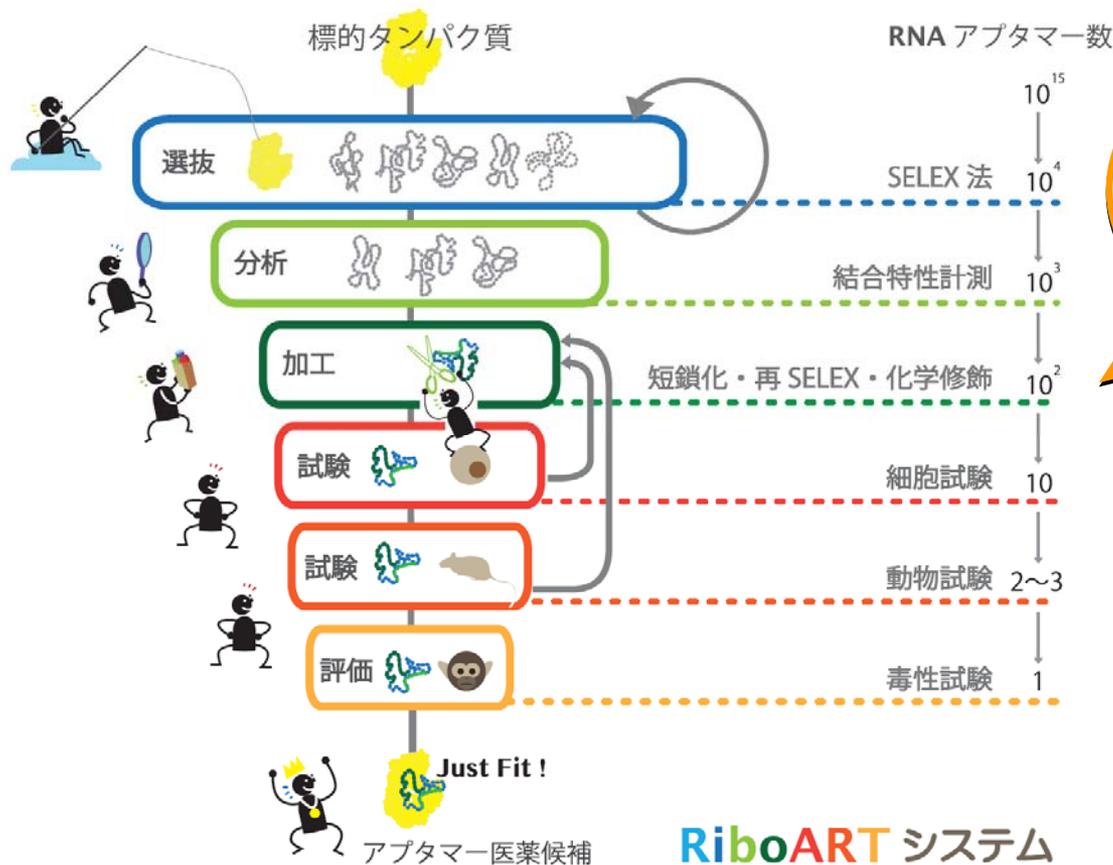
注:上記の図は、一般的なケースとして当社が想定している収益計上のタイミングを表すものです。
個別の契約によりそれぞれの金額や受取回数等が異なる場合があります。

「アプタマー創薬」により

- 1 Unmet Medical Needs**
(未だに満足すべき治療法のない疾患)に応える。
- 2 日本の創薬力を復活させる。**
- 3 産学連携を推進する。**

当社のコア技術「RiboARTシステム」

「RiboART (Ribomic Aptamer Refined Therapeutics) システム」:
シーズの探索から臨床開発品の仕上げまで、一貫したアプタマー創薬を実現



【強み】

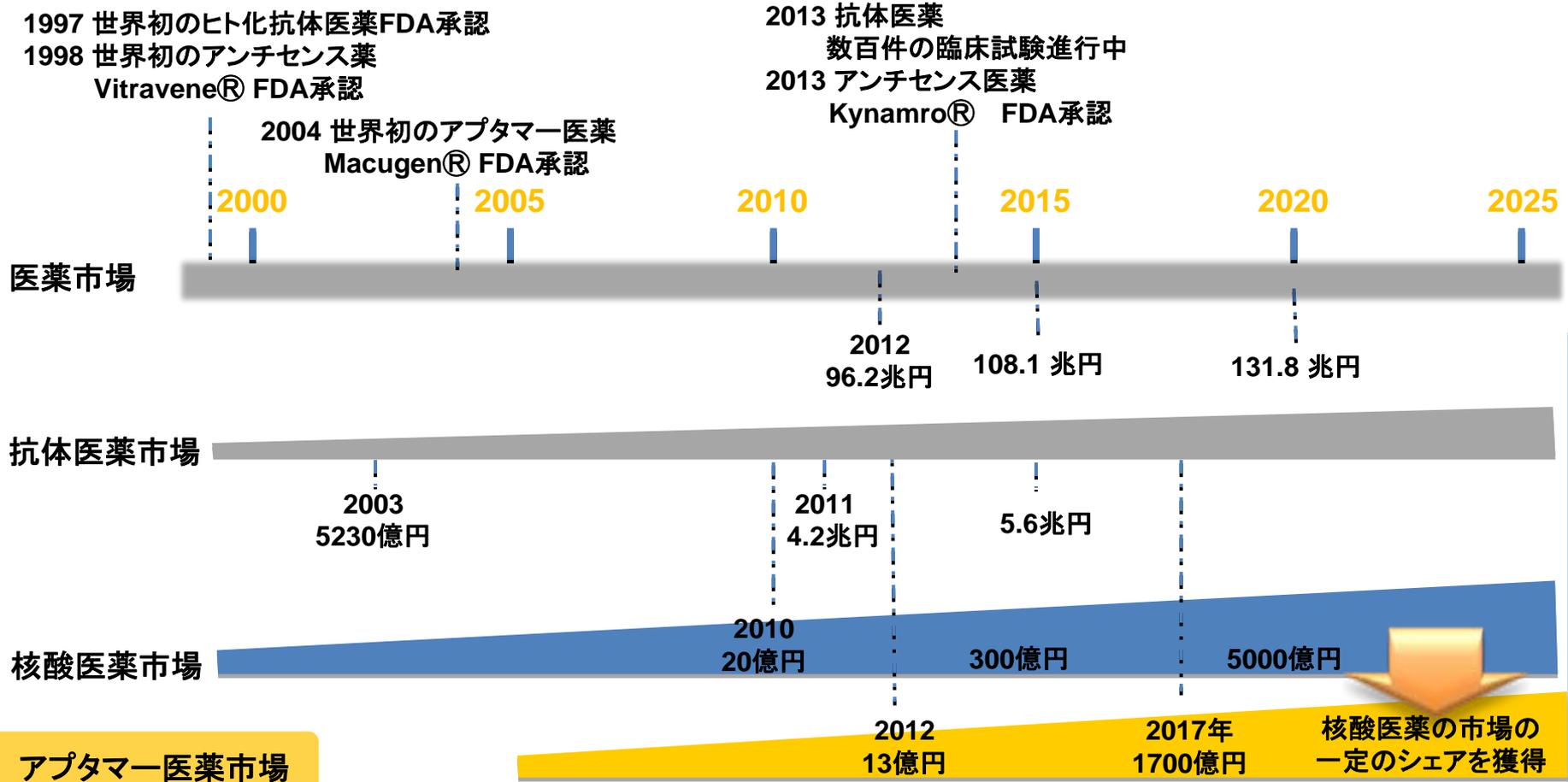
アプタマーの最適化
プロセスで結合力(Kd)を
 $10^3 \sim 10^4$ 倍増強し
 $Kd < pM$ を達成!

RiboARTシステムの主な内容

1. アプタマーの取得技術
2. アプタマーの最適化技術
 - 2-1. 短鎖化
 - 2-2. 化学修飾
3. アプタマーの製造法、品質規格の設定、品質管理等のノウハウ

医薬市場の展望

医薬市場は「抗体医薬」「核酸医薬」に牽引されて拡大する見通し
 アプタマー医薬は核酸医薬市場の拡大を牽引すると考えています。



金額換算：1ドル=100円換算

出典：世界医薬品市場（2012年の医薬品市場：「IMS Health Market Prognosis」, IMS, 2013年6月、2015年及び2020年の医薬品市場：「Future Pharma, Five Strategies to Accelerate the Transformation of the Pharmaceutical Industry by 2020」, KPMG. Co, UK, 2011年）、抗体医薬の市場（「2012年版 世界の抗体医薬品開発の最新動向と市場展望」、株式会社シード・プランニング、2012年7月、核酸医薬の市場（「核酸医薬品等共同製造施設設置に向けた事前調査」報告書、株式会社シード・プランニング、2011年2月）、アプタマー医薬市場（BCC Research 2012年10月24日ニュースリリース）の予測をもとに当社で作成。

パイプラインの状況

研究開発形態	Project No.	開発中の適応症	基礎・探索研究	前臨床試験			臨床試験	備考 (追加可能な適応疾患等)	
				<i>in vitro</i> <i>/ in vivo</i> 試験	予備毒性試験	GLP試験	第I相		
共同研究開発	RBM001	免疫・炎症性疾患							
共同研究開発	RBM002	血液疾患							
共同研究開発	RBM003	線維症							
ライセンス・アウト ※	RBM004	疼痛							
自社開発	RBM005	敗血症							循環器疾患他
		線維症							
自社開発	RBM006	肺線維症							癌、癌性疼痛他
自社開発	RBM007	骨疾患							癌、リウマチ他
		癌性疼痛							
		線維症							
		加齢黄斑変性症							

※:2014年4月に藤本製薬株式会社へライセンス・アウトいたしました。

注意事項

- この資料は投資家の参考に資するため、株式会社リボミック(以下、当社)の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、平成26年8月20日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 投資をおこなう際は、必ず当社が作成する新株式発行並びに株式売届出目論見書(及び訂正事項分)をご覧くださいの上で、投資家ご自身の判断でなさるようお願いいたします。
- 目論見書のご請求・お問合わせは、下記の取扱金融商品取引業者までお願いいたします。
大和証券株式会社、みずほ証券株式会社、SMBC日興証券株式会社、いちよし証券株式会社、エース証券株式会社、株式会社SBI証券、マネックス証券株式会社
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。